

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3070104462
法人名	社会福祉法人 芦辺会
事業所名	グループホーム あしべ
所在地	〒640-8124和歌山県和歌山市雄松町3-19-6 (電話) 073-436-0200

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年3月5日	評価確定日	平成22年4月21日

【情報提供票より】(平成22年 2月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 17人, 非常勤 1人, 常勤換算 8.35人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	4階建ての	2階 ~	4階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4)利用者の概要(2月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	4名	要介護2	3名		
要介護3	7名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 81歳	最低	66歳	最高	92歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	済生会和歌山病院、須佐医院、和歌浦中央病院、瀬藤病院、仲河眼科、平歯科
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

和歌山市内の繁華街を少し外れた住宅街にある当該ホームは、近辺に法人芦辺会諸施設があります。地域との交流を大切にみんな笑顔で過ごせるようにと願いを込め理念を作られています。文化祭や盆踊りなど多彩な地域行事に参加するとともに、幼稚園や小学校から出し物等持参で訪問があったり、また出かけたりと地域に根差した関わりを育んでいます。また、職員は利用者本位を如何に実現していくか模索し、近づけていくための工夫をされています。利用者がやりたい気持ちになれるよう、出来る事を掘り出しやすいようにシートを作成し利用者の生活リズムの中に出来る事を組み込み、職員が支えて実現されています。職員の質と安定を図るため、職員雇用を常勤にし研修で高め合い、利用者本位の支援に反映しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点については、市町村との連携項目であり、制度上の問題などより積極的な関わりに繋げるようにしており、改善課題に対し順次改善方向に検討されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価に対して職員の意義の理解に努めるとともに、自己評価表を囲んで、出来るだけ多くの職員から話を聞き、まとめて作成しています。前回の評価課題については市町村との連携項目では、制度上の問題などより積極的な関わりに繋げるようにしており、改善課題に対し順次改善に向け検討されています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は芦辺地区より教育部会会長、人権委員会監査員、子ども会会長、公民館会計と、利用者の参加で2ヶ月に一度行われています。施設の状況や行事報告を行い、意見交換が活発に行われています。運営推進会議の委員の方々は、ホーム行事にも絶えず関わって頂けており会議内容が深められています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時に出来るだけ意見を聞くようにしています。苦情や意見が家族からなかなか出されず、アンケートをとり細かい要望の収集を行い運営に反映すべく準備を始めています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	活発な地域活動の多くに出来るだけ参加するようにしています。幼稚園はじめ小中学校からの訪問があったり運動会の行事の見学に参加しています。また、昨年の大雨後の浸水時には利用者・職員は共に近辺の清掃を行い、地域からの感謝の声がかかるなど、更に深い関わりに繋がっています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームでは地域交流を大切に、笑顔とゆとりをキーワードにした理念を掲げ、日々の支援を展開されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、事あるごとに念頭に置き支援が出来るようにと心がけている。新任の教育時にも必ず理念伝えたり、ユニットの出入り口に誰もがみれるよう掲示するなど、思いの共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	活発な地域活動の多くに出来るだけ参加するようにしている。幼稚園はじめ小中学校からの訪問があったり運動会の行事の見学に参加している。また、昨年の大雨後の浸水時には利用者と職員は近辺の清掃を行い、地域からの感謝の声がかかるなど、更に深い関わりに繋がっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価に対して職員の意義の理解に努めるとともに、自己評価表を囲んで、出来るだけ多くの職員から話を聞き、求めて作成している。前回の評価課題については市町村との連携項目であったため、制度上の問題などより積極的な関わりに繋げるようにしており、改善課題に対し順次改善方向に検討されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は芦辺地区特別対策協議会教育部長、教育部会会長、人権委員会監査員、子ども会会長、公民館会計と、利用者・家族の参加で2ヶ月に一度行われている。施設の状況や行事報告を行い、意見交換が活発に行われている。運営推進会議の委員の方々は、ホーム行事にも絶えず関わって頂けており、会議内容が深められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には機会がある毎に、法人の担当者を通じた関わりや相談がなされている。市への働きかけの中で、制度上の問題や相談を行う場合もあり、結果的には質の向上への取り組みとなっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当者制を取り、家族に向けて利用者の健康状態や行事での写真などを便りとして毎月送られている。金銭管理は立て替え金で、月々請求書をレシートと共に出納帳に記録、家族の来訪時などに確認頂いている。また、職員の異動については家族の来訪時に紹介し、利用者には日々の支援の中で伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に出来るだけ意見を聞くようになっている。苦情や意見が家族からなかなか出されず、アンケートをとり細かい要望の収集を行い運営に反映すべく準備を始めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新任職員の定着までに入れ替わりがあったが、法人は出来るだけ常勤雇用にする事で、安定して質の高い職員による介護をと考えている。入職後は出来るだけ利用者とのコミュニケーションを優先し、ベテランを間に日勤中心に勤務を重ね、夜勤に繋げ、希望休を優先し働きやすい状況作りに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修や外部研修について、情報を流し出席を促している。ホーム内研修を毎月計画的に行い、希望する講座を職員が受け持ち、施設長や法人の援助を得つつチャレンジし講師養成と共に質の高い職員への育成に力を注いでいる。新任職員は1年にわたり研修を受け、実践に即した講習を行い育成を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設間で交流が図られており、管理者中心ではあるが、交流が行われている。今後に向けて合同研修会の提案もなされ、共に質の向上に向けた取り組みが図られつつある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては、出来るだけ本人の見学を勧めている。家族が来られても、利用者本人に一度見て頂くようにしている。また、訪問を重ねて馴染みの関わりになるよう努めている。入居後は利用者が落ち着かれるためのよりよい方法を探り、家族の協力を得るなどし安定に繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や家事などについて、職員は教えられる機会が多く、包丁さばきなど長年培われたものは身体が記憶している事が実感されている。職員は入居者の生活をどう支えるかをテーマにし、出来る事を見つけ出来た事を共に喜び、やる気に繋げ喜怒哀楽を共有している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	独自の聞き取りシートを作り、出身や生活歴をセンター方式と合わせて情報収集し、意向の把握に繋げている。また人生で一番輝いていた時を記録し、日々の生活や会話に反映し思いの把握に繋げている。困難な場合は日々の記録から拾い出し、要求を見つけるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランを基に「できる事」シートを作り、何が出来るかを土台にし、生活リズムに沿った援助ポイントをつくっている。居場所、必要な環境、考えられるリスクを記録しやりたい気持ちが育まれるようなケアプランに繋げている。カンファレンスを行うとともに3ヶ月毎に評価を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	プランの見直しは基本的には6ヶ月に一度行われ、事前に聞き取った家族や医師の意見が反映できるようにしている。状況の変化があれば必要に応じて見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別の要望は出来るだけ実現できるように心がけている。季節の衣類や植栽の購入、また近くで行われた物産展に出かけたりしている。博物館で行われた昔の生活展などでは、懐かしさと共にいつまでも話題に上がり、喜ばれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時には利用者・家族の意向を尊重したかかりつけ医を決めており、個別のかかりつけ医の往診もみられる。遠方のかかりつけ医であった利用者等、多くの方はホームの協力医に変更されている。定期的受診への送迎や、体調不良時の往診がなされ、訪問看護が毎週来訪されるなど、安心の医療支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族には重度化対応や終末期の対応などホームの出来る事や方針を伝え同意を得ている。ホームでは、出来る限りの対応を行う意向を家族にも伝え、職員と共に対応が出来る体制にある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけについては常日頃から話し合っており、居室の出入りなども含めプライバシーへの配慮なされている。特に排せつや入浴時の声かけなどお互いに注意しあうようにしている。書類の保管や記入場所も含め職員間で慎重な扱いをするように徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「今日何をやる？」の質問で一日が始まるようにしている。食事は大家族のように皆で食べるようにしているが、声かけで無理強いでないようにしている。利用者が役割が發揮できるようにと考え、牛乳の購入を引き受けられた方は、人間関係が積極的にできるようになるなど、希望や要望に沿った暮らしづくりが、利用者の笑顔を引き出す結果となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	前日の献立を利用者の意見等も聞きながら立て、翌日利用者と共に買い物に出かけ作っている。調理の手伝いや配下膳など出来る事を手伝って頂く中で、周りの方々が自主的に出来る事を見つけ、皆でつくる雰囲気が出来あがっている。職員と共に作り食べ、穏やかにゆったりと昼食時間を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴はいつでも可能であるが、今は午後からの対応が行われており、利用者の希望時間に沿っている。拒否傾向にある方には時間を替えたり声かけなど工夫によって、最低でも週3回は入浴いただけるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花見や水族館、物産展や百貨店など利用者の希望に沿って出かけている。出来る事を見つけ、役割を担って頂くようにしており、米を研いで頂いている方はその時だけは腰がシャンとなるなど自信に繋がっている。輝いていた時や出来る事の発見を促すシートなどを利用して張り合いになるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者と職員は日々の買い物を行い、天気の良い日には周辺を散歩している。希望に沿って出かけるようにしており、回転寿司や中華、喫茶などの外食や買い物など、繁華街に近い事も多彩である。出かけるにくい時は屋上庭園での植栽をいじったり、池の金魚を眺めるなど外気浴も楽しみの一つとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームでは拘束に対する意識を高め、委員会を作り研修を行い職員の知識を高めている。繁華街に近いということもあり、家族の了解を得て電子ロックを取り入れている。利用者は出かけた際にはいつでも職員に声を掛け、出かけており、閉塞感のないように配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回昼夜想定で避難訓練を行っている。具体的な出火場所などを想定し歩ける利用者は階段を歩き、出来ることへのチャレンジを行い習慣づけるようにしている。運営推進会議でも声掛けを行い出席をいただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録を行い、水分量は一日を通じた量を確認している。日々の献立は法人の献立を参考にし、栄養バランスや組み合わせなど法人の栄養士からアドバイスを頂いている。食事前には発声練習を楽しみ誤嚥の防止に努めている。体重の増減に注意を払い、茶がゆの提供や病態食への配慮も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や職員の力作である、立体アートの飾り物が玄関で出迎えてくれる。台所からの香りが漂うリビングは、楽しみの記録である多くの写真や、立体工作が飾られ大家族のような居場所となっている。共同イベントなどは4階の多目的室に集まり、ユニットの垣根を払った交流が行われ、屋上庭園の植栽なども楽しむ事が出来る。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台とチェストが設置され衣類の収納や飾り棚が便利に機能している。利用者は、机やいす、テレビなど希望に沿って家具を持ち込まれている。思い出の家族写真はじめ、人形や花など自由に居室を飾られている。		